

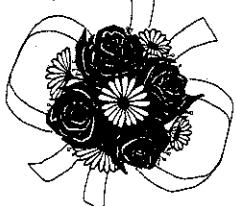
勝林寺 永代経



月八日・九日はわたくしたちの寺の
永代経法要です。
七月九日は勝林寺仏婦の総会です。
その準備を仏壯仏婦協力していただき
ましょ。ご協力を願いします。

①七月二日(日)

出石組仏壯連盟総会(午前9時 真覚
寺)終了後→昼食→本堂境内清掃作業
②作品展示会の準備
永代経協賛事業として毎年作品展示会
を行っています。仏婦仏社会員の(子
供作品も歓迎)作品を奮って展示して
ください。六日に搬入してください。
七日に仏壯で展示会場設営します。



です。
念佛は 生死を越えて 生きる道
なるほどと頷かせていただきました。

歓喜盛大な法要の全容
撮影展示
注文受付

法要期間中、カメラを構えて縦横無尽に飛
び回り、その全容のすみずみまでをたくさん
の写真に写し取つてくださいました。

大石 正和さんの力作です。

永代経法要の期間中展示公開します。
そのとき申し込み用紙で注文を承ります。

勝林寺の掲示板に、もう随分まえから
念佛は 生死を越えて 生きる道
という標語が書いてありました。夕食後の散
歩の度に止まりますので、その時々、わ
たしいろいろな事をその標語から学ばせて
いただきました。

まず、桜の花の咲き散る春の宵には、あの
「いろはうた」の「有為の奥山今日越えて浅
き夢みじ醉ひもせず」：有為転変、ころころ
移り変わり通しのこの世のこととに執着したり
、浅はかな夢を追いかけたり、はかない歡樂
に酔いしれないで、明日と言わず今日ただい
ま、それを越えて、永遠不変のいのちに生
きかえりなさいよ。それがお釈迦様のおしえ

念佛は

勝林寺の掲示板に、もう随分まえから

念佛は 生死を越えて 生きる道

という標語が書いてありました。夕食後の散
歩の度に止まりますので、その時々、わ
たしいろいろな事をその標語から学ばせて
いただきました。

念佛は 生死を越えて 生きる道

あの掲示板。〈念佛は 生死を越えて 生
きる道〉 每晩見て考へている間に季節は新
緑初夏の候。こせこせあわただしく生きてい
るわたしが、気が付いて見ると、大きな自然
の運行のなかにつつまれていて、それよりももつと広大な如来さまの願いに
願われているいのちであることを、お念佛の
なかで知らせていただくことでございました

なく。お釈迦様のおしえた〈無量のいのち〉
へこだわりなき清淨ないのち〉にうまれかわ
なさい。それが仏教。清淨な土に生まれ
変わふるお念佛のおしえ。」

わたしの念願



今年で二年目の勝林寺仏社会長を勤めさせて
いた大石正和さんです。永井孝一郎であります。
わたしを導いてくださったのは、前の坊守
さまでした。

「マア、マア、マア、マア。」

すこし高めの奇麗な声、大きく見開かれたや
さしい美しい瞳(瞳子さまのその名のとおり)
に迎えられておもてなしにあづかった日
のこと。

いろんな御馳走、酒ビール。「カラオケ」

わたしは、友が共に会い集まる機会を作り
たいと思っている。

どうぞ積極的に参加してみてください。
春の納骨研修旅行。観桜会。降誕会。永代
経。春秋彼岸会。別修報恩講。それに報恩講
、除夜会と。

難しいことを一人で考へるのではなく、みんな
と一緒に集い会うなかで自然に育てられ
育てられるのであると、わたしはつくづく
感じるのでした。

今年四月、わたしたちの寺の新しい体制が
整いました。

深音わかさんの可愛い法衣すがたは大変な
評判でした。

(研修会の報告を書けといわれたのですが
それよりも直接わたしの今の思いを書い
てみたいと思いまして)

なども飛び出した出石城址での春の観桜会。
本堂での春秋の研修会。いっぱいの幸福感に
つづまれて。

今はもうずっと昔の、お元気に輝いていた
在りし日の前の坊守さまのお姿が目に浮かび
ます。その坊守さまのあの雰囲気のなかに
わたしは育てられてきたのだと思っておりま
す。

いま、この原稿を書いている部屋のテレビ
のNHKスペシャル「いのちの法話」で、瀬戸
内寂聴さんの語る「生と死」が放映されて
います。

人は、生まれながらの生・老・病・死の約
束事のなかで、その日その日を過ごしている
。その苦惱の中を生きるには、一人では過ご
すことはできない。そこでその孤独を癒しそ
の一人を支えてくれるものとして、兄弟、家
族、友だちを求めるのではないか。

人は、友のつどいの中で、慰められ励まさ
れ育てられるのであると、わたしはつくづく
感じるのでした。

